

喜茂別町立鈴川小学校

実施日：平成 23 年 11 月 17 日（木）11:35～12:20

講 師：宮下 健四郎氏（択捉島出身）

今ご紹介いただきましたように、昭和4年生まれの82才です。私は、択捉島の入里節（いりりぶし）というところで生まれました。親は郵便局長をやっていたので、家族で住んでいたのですが、私は、旧制中学に入るために、昭和17年に札幌に来ました。その頃は、太平洋戦争が始まっていたわけですから、中学では勉強どころではなくて、2年生の時に、援農と言うんですけども、中富良野の農家の手伝いをやりました。私たちは島での生活しか知らないの、農家の作業とか生活とか知らないわけです。男子生徒2人組で農家に配属になって、草取りとか色々な仕事をするのですが、ある時、もう一人の生徒が来ないので訳を聞いてみると、農作業したことがないからいやだと言って泣いてました。その後、砂川の東洋高圧という会社で作業をしていたときに、8月15日に天皇陛下の玉音放送を聞いて日本が戦争に負けたことを知りました。その時、親たち家族は島に残っていて、兄は兵隊に行っていたので、全然連絡も取れず中学に行っても勉強どころではないから、知り合いが白糠にいたのでそこに行って農業の手伝いなどをやっていました。親達も兄も帰ってこないの、学校に休学届けを出し、昭和23年に親が帰って来たときに、学校の夜学に入り直しました。卒業後は、東京の大学の夜学に進学しました。大学を卒業したときは、同級生よりも8才も年上でした。

北方領土の位置は、根室の東側にある島で、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の4つを北方領土（北方四島）と言っています。国境の変遷ですが、1855年に日本とロシアの間で日魯通好条約が結ばれ、択捉島とウルップ島の間で国境線が引かれました。ですから、「北方領土の日」というのは、この条約が結ばれた日が新暦の2月7日に当たることから、2月7日を「北方領土の日」として昭和56年に決められました。次に、1875年に千島樺太交換条約というのがありますが、それまで樺太には日本人とロシア人が混住しておりどちらの領土とも決められていませんでした。そこで、千島列島の全島を日本の領土にする代わりに、樺太をロシア領として認めるというものです。1905年には日露戦争の講和条約としてポーツマス条約が結ばれ、日露戦争の結果、南樺太が日本の領土になりました。また1951年には、第二次世界大戦の講和条約として、サンフランシスコ平和条約が結ばれましたが、この中で日本は北方領土を含まない千島列島と樺太の南半分を放棄しました。

北方領土は一度も外国の領土となったことのない日本固有の領土ですが、ソ連軍が終戦後間もなく択捉島をはじめ国後島、色丹島、歯舞群島に侵攻し、ソ連軍による略奪や暴行を受けたと話す元島民もいます。私の祖先は、元々は石川県の出身だったのですが、約150年前に島に渡って鮭・鱒の養殖事業を始めて、たくさんの稚魚を放流していました。稚魚が大きくなって帰ってくるのは4パーセントくらいといわれていますが、北方領土の近海は世界の三大漁場の一つと言われただけに、鮭・鱒がたくさん獲れました。また、北方領土には、いろいろな動物がおり、鷲、梟、エトピリカ、ヒグマ、テンなどもおり、その他クジラ、シャチ、アザラシ、ラッコがいました。私たちの先祖の墓が択捉島にありますので、墓参、ピザなし交流などで行ったときに見るのは、今申し上げたような動物たちです。ラッコは出てくるときが決まっていて、国後島の近くで朝早くに見ることができます。私は択捉にいた人間ですから、クジラの出でくる時間などわかっていて何回も見ていますが、たとえばマッコウクジラが5頭も6頭も並んで泳いでいる姿は壮観です。

択捉島の面積は、3,184km²で鳥取県とほぼ同じで、国後島が沖縄本島、色丹島が鹿児島県の徳之島、歯舞群島が小笠原諸島と同じくらいの大きさです。択捉島の距離は、北海道内に置き換えると釧路から留萌まで

を結んだ直線距離と同じになります。択捉島は日本で一番大きな島であるということを知っていただきたいと思います。産物は、択捉島では得茂別川（うるもんべつがわ）というのがあってそこでも鮭・鱒の養殖をやっていました。支笏湖を見に行ったときに、支笏湖のヒメマスは択捉島の得茂別から移植したものであると資料館に説明が書かれてありました。皆さんが支笏湖のヒメマスを見るときには、択捉から来たんだということを見て下さい。択捉島には中央部より西側に単冠山（ひとかっぱやま）というのがあって、1,566mあります。その東隣に恩根登山（おんねのぼりさん）、一番高い山が中央部北側に散布山（ちりっぷやま）があって1,586mです。根室から水晶島までは7km、北方領土の自然は、暖流と寒流が流れている関係で比較的暖かいです。また、火山帯が走っていることから、択捉島にも国後島にも温泉があちらこちらにあります。

北方領土の人口は、昭和20年8月15日現在で約17,300人が住んでいました。終戦から66年が経過して、今、元島民の数は約8,000人とされています。また、元島民の子孫を含めると約3万人いると聞いています。海産物はどんなものが獲れたかという、鮭、鱒、鯡、サンマ、オヒョウ、カレイ、マグロ、毛ガニ、タラバガニ、花咲ガニ、エビ、ホタテ、昆布、海苔など多くの海産物が獲れました。また、捕鯨場（鯨場）に上がった大きな鯨が解体されて、いただいた肉を皆で分けて食べた思い出があります。昭和14年から16年までの間に、北方領土で獲れた漁獲高は平均で約21万トンあったとされています。子供達は、川に行くと、川が真っ黒になるくらい魚がいるので、釣りをしたり、手製のヤスで突いて魚を捕っていました。また、当時乗り物といえば馬なので、私の家は郵便局をやっていた関係もあって馬が7頭も8頭もいたので、馬に乗ってみたいと思うのですが、馬に何回も落とされたことがあります。冬には、スキーに乗っていました。当時、旧小樽高商（今の小樽商大）の学生が、択捉島にスキーの練習に来たこともありました。

17世紀頃から、松前藩はアイヌとの交易を通じ北方領土を管轄するようになり、18世紀末には幕府の命で最上徳内（みがみとくない）や近藤重蔵（こんどうじゅうぞう）などが北方領土に派遣されるとともに、高田屋嘉兵衛（たかだやかへい）が北方領土の航路を開拓し、各地に漁場を開きました。私は、高田屋嘉兵衛の子孫に会って話を聞いたことがありますけれども、高田屋嘉兵衛は淡路の出身で、函館を拠点として北方領土の開拓を行ない、函館の護国神社には高田屋嘉兵衛の銅像が建っています。

私たちは、墓参やビザなし交流などで北方領土に何回か行ったことがありますが、ビザなし渡航というのは、通常、外国に行く場合には、相手国がビザと呼ばれる証明書を発行して外国に入国するのですが、ビザなし渡航の場合は、ビザがいらぬ代わりに身分証明書をロシア側に提示しなければなりません。

昭和20年8月15日現在、択捉島には3,608人、国後には7,364人、色丹島には1,038人、歯舞群島には5,281人で、合計17,291人が住んでおりました。しかしながら、戦後66年が経過して元島民のうち生きている方が約8,000人となってしまいました。来年の5月には、新しい交流船が就航しますので、是非、行ってみたいと思っています。



栗山町立角田小学校

実施日：平成23年11月29日（火）13:00～13:45

講師：宮下 健四郎氏（択捉島出身）

皆さんこんにちは。

北方領土は北海道の東に位置する、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島。この4つ島を北方領土と言います。

北方領土の歴史ですが、1855年日魯通好条約により択捉島とウルップ島の間に国境線が定められました。また樺太は混住の地とされました。1875年樺太千島交換条約では樺太全島とウルップ島以北の千島列島を交換し、樺太はロシア領土に、千島列島は日本の領土になりました。1905年ポーツマス条約では樺太半分が日本の領土となりました。1951年サン・フランシスコ平和条約では日本とアメリカが戦争をし、敗北した時に締結し、その時日本は南樺太と千島列島を放棄しました。ただし、日本が放棄した千島列島には我が国固有の領土である北方領土は含まれていません。もともと北方領土は日本のものだったので議論の対象とはならない。この条約ではソ連は関わってなく、条約の中にも印鑑も押していない。このように国際法上からみても北方領土は日本固有の領土です。そういう状態でも、今もなお、北方領土はロシアに不法に占領されている状況が続いています。

島の面積ですが、択捉島は鳥取県と同じくらいの大きさ、国後島は沖縄本島と同じくらいの大きさ、色丹島は鹿児島県の徳之島と歯舞群島は小笠原諸島とそれぞれ同じくらいの大きさです。また択捉島は日本でも一番大きい島です。

私の住んでいた択捉島は、北海道が「蝦夷地」と呼ばれていた時に、函館の松前藩が、千島のアイヌの方々と貿易するため、島を行き来していました。当時、択捉島ではラッコの毛皮を松前藩と取引し、その毛皮は松前藩の殿様の貢ぎ物として献上していました。今から400年くらい前から取引をしていた。その後、松前藩は蝦夷地調査で北方領土の島々の地図を作成した。1635年の今から380年もの前に作成しました。その時から北方領土は日本の領土であると主張しています。

北方四島の自然は、オオワシ、シマフクロウ、エトピリカなどの珍しい鳥類やヒグマやクロテンなどのほ乳類も数多く生息しており、ハマナスなどの花も咲き乱れている。

私の先祖は、今も択捉島にあるお墓に入っています。お墓参りに2度ほど択捉島を訪問したが、現在土地は荒れており、墓石もなくなり、その墓石は、現在択捉島に住んでいるロシア人の住宅の敷石などに使われておりました。

択捉島での生活は、当時東洋一のベニマス養殖孵化場が、私の住んでいる村のそばにあり、支笏湖の資料にも支笏湖のヒメマスは択捉島から来たものだと言われており、択捉島付近の海は、世界の三大漁場であることから、水産資源は豊富でした。

戦争が終わったのは昭和20年8月。その後、ソ連軍が突然島にやって来ました。ソ連軍が入ってきたときは、一軒一軒家を物色して回り、私の家に来た時は食料や日用品など盗んでいき、その時、ソ連の兵隊は千島列島にアメリカ軍をいないことを確認し、アメリカの軍隊もいなかったのもので、やりたい放題でした。

当時私は、学校に通うため島を離れ札幌に居たので、そのときのことは昭和23年、親が引き揚げてきたときに聞きました。

また、当時のソ連は、日本軍隊を極寒の地のシベリアに連れて行き、木材の伐採などの重労働をやらせ、その人数は65万人。そのうち亡くなったのは6万人くらいと言われている。

日本人が強制的に引き揚げてきた昭和23年以降、北方領土には日本人は住んでいません。

今も私は元島民として北方領土返還運動をやっているのですが、現在日本人が住んでいないので、日本の政府はさっぱり力が入らない。国と国が領土交渉をやっていない状態である。実際、ロシアに島を返してくれとは言っていない状態である。

今まで集まった署名数は8,300万人を超えたが、実際は外交交渉ぜんぜん進展はしていません。私達にできるのは署名活動を集めて政府に要請するくらいだが、何ら進展はない。私も現在82歳となり、今後皆さんのような若い人に北方領土問題を少しでも理解していただき、返還運動を引き継いでいていただきたいと思います。



八雲町立泊川小学校

実施日：平成 24 年 1 月 26 日（木）13:25～14:10

講 師：宮下 健四郎氏（択捉島出身）

今ご紹介いただきましたように、昭和 4 年生まれの 82 才です。私は、択捉島の入里節（いりりぶし）というところで生まれました。親は郵便局長をやっていたので、家族で住んでいたのですが、私は、旧制中学に入るために昭和 17 年に札幌に来ました。その頃は、太平洋戦争が始まっていたわけですから、中学では勉強どころではなくて、2 年生の時に、援農と言うんですけども、中富良野の農家の手伝いをやりました。私は島での生活しか知らないの、農家の作業とか生活とか知らないわけです。男子生徒 2 人組で農家に配属になって、草取りとか色々な仕事をするのですが、ある時、もう一人の生徒が来ないので訳を聞いてみると、農作業したことがないからいやだと言って泣いてました。戦争がいよいよ大変になってきたときに、滝川の近くに砂川という町があるのですが、東洋高圧というところに連れて来られました。そこで記憶にあるのは、ご飯は普通には出ない。そのうち、昭和 20 年 8 月 15 日に、日本が戦争に負けたわけです。家は、択捉島で郵便局をやっていたんですけども、父親は帰ってこない、兄も兵隊に行っていましたので、どうしようもなくなって、叔父が釧路の近くの白糠におりましたので、軍馬を補充するための空き家があるということで、そこに行って休学して農家の手伝いをしておりました。親が帰ってきたのが戦争が終わって 3 年経った昭和 23 年 10 月に樺太経由で帰ってきました。その時私は学校を卒業していなかったの、夜学に入り直して卒業してから東京の大学に進学しました。大学を卒業したときには、同級生よりも 8 才年上でした。今 82 才になりましたが、友達もほとんどが亡くなってしまいました。

北方領土の資料を見ていただきたいと思います。詳しくは別の資料に書いてあります。

まず、北方領土は何かというと、北海道の東にある、択捉島から南の島々のことをいいます。択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の 4 つの島で北方四島とも言います。1855 年に日魯通好条約が結ばれ、日本とロシアの国境が択捉島とウルップ島の間に決められました。その次、1875 年の千島樺太交換条約で、樺太と千島列島の北側の島々を交換しようということで、ウルップ島から北の島々が日本の領土となりました。1905 年には、日露戦争後のポーツマス条約で樺太の南半分が日本の領土になりました。そして、1951 年のサンフランシスコ平和条約で南樺太と千島列島を日本は放棄しました。この千島列島には、ウルップ島より北の島々を指しているの、北方領土である北方四島は含まれていません。また、ソ連はサンフランシスコ平和条約に調印しておりません。以来、現在に至っております。

北方領土周辺の海は、暖流と寒流が流れており、全体的に暖かく温度的には根室とほとんど変わりありません。地形は、千島火山帯が走っていることから海岸が切り立っていて国後島の爺爺岳（ちゃちゃだけ）や択捉島の散布山（ちりっぴやま）など 1500 メートルを超える山があります。私は択捉島の出身ですから、1600 メートル近い散布山は形が良く、眺めておりました。火山帯ですから温泉もある。私は千島の出身なので、鹿児島島の温泉に入ったとき、日本は本当に火山列島だなあとおぼやかりました。雨の量も多くなく、根室と同じような状況です。当時の産業は、鮭鱒の養殖事業で、卵から返して川に流しても、統計では 4 パーセントくらいしか戻ってこないといわれておりますが、北方領土の海域は世界の 3 大漁場の一つと言われており、鮭、鱒をはじめ、鯨やその他多くの魚の宝庫となっております。ある時、マッコウ鯨が捕れた時に鯨の牙を父がもらい受けて、鯨の牙で将棋の駒を作ったものが一組、我が家に残っております。私の家は鯨場から近かったこともあり、子供の頃から鯨を食べていました。当時、択捉島には鯨場が 2 箇所あったと思います。皆さんは生きた

鯨をみたことがありますか。鯨は、出る場所と時間が決まっているので、墓参とかピザなし交流で北方領土に行ったりした時、その近くに行くと体長10メートル以上の鯨を見ることができます。

支笏湖の資料館を除いたとき、実は、支笏湖のヒメマスは択捉島得茂別（うるもんべつ）から持ってきたものだという記載がありました。家の近くには、得茂別の孵化場があり、函館水産を卒業したばかりの若い人が来ていましたが、当直したとき何の楽しみもないため、入里節の私の自宅にレコードを聞かしてくれという電話があり、電話でレコードを聞かしたこともあります。村でも電話のある家は3軒くらいしかありませんでした。子供達の遊びは、魚は鮭や鱒、カジカもいっぱいいたので釣りはよくやっていました。魚もたくさんいたので釣るだけではおもしろくないので、ヤスで魚を突いて魚を下流で拾い上げました。冬は、村のスキー大会などで楽しんだ思い出があります。札幌の中学に入ってスキーをやろうと思いましたが、札幌と択捉の雪質が全く違って、札幌の雪が柔らかくて全く滑らないので、やらなかった記憶があります。

戦争が終わって兵隊がいなくなり、国後、歯舞、色丹であれば根室に向かっていけますが、択捉から根室までは一昼夜かかってしまうので、脱出するのは困難でした。私たちの村ではソ連軍に暴行を受けたという話は聞いたことはありませんが、他の村ではあったようです。親戚で、船で根室に向かっている途中に、船が沈没して亡くなった方もおります。戦争中は、日ソ中立条約が効力を持っていたので、ソ連が攻めてくるとは思っていませんでしたが、日本はドイツやイタリアと同盟を結んでおり、ソ連はドイツと戦っていたので、ソ連は一方的に中立条約を破棄して攻め込んできたわけです。北方領土を占領するときも、アメリカ軍がいないことを確認してから攻め込んできました。今、北方領土には日本人は残っていません。そのことが、北方領土問題を長引かせている大きな原因であると思います。皆さん方に北方領土問題をきちんと認識してもらって、「北方領土を返して欲しい」ということを伝えてもらいたいというのが私たちの願いなのです。質問の中で、ソ連が攻めてきた時の心境や島を奪われたときの気持ちはどうですかということについては、私は当時村にいなかったのですが、話すことはできませんが、私たちの先祖が開拓し、住み続けてきた土地ですから、ロシアには島を返して欲しいというのが偽らざる気持ちです。

